

目次

はじめに 1

本書の使い方 7

一般

- 1 国語科は、日本語を教える教科ですか。 8
- 2 「日本（語）」は、「にっぽん（ご）」が正式な呼び方ですか。 10
- 3 日本語に「標準語」はありますか。 12
- 4 漢字を使う日本語は、中国語と同じ系統の言語ですか。 14
- 5 卑弥呼も日本語を使っていましたか。 16
- 6 若者言葉は、すべて、悪い言葉ですか。 18
- 7 言葉遊びは、平安時代のような昔からありましたか。 20
- 8 日本語は特殊な言語ですか。 22
- 9 日本語は、国際的な言語になれますか。 24
- 10 国語学や国文学の知識があれば、国語を適切に教えられますか。 26

語彙・意味

- 11 「道」と「道路」、「あす」と「みょうにち」は、同じ意味ですか。 28
- 12 「暑い」の対義語は、「寒い」だけですか。 30
- 13 「～人」、「～つ」、「～体」など、助数詞を使い分ける必要はありますか。 32
- 14 「割合が多い」は間違いですか。 34
- 15 幼児に対して大人が幼児語を使ったり、幼児自身が幼児語を使ったりしてはいけませんか。 36
- 16 読書をすれば、自然と語彙力は上がりますか。 38
- 17 様々な辞書に書いてある意味は、すべて同じですか。 40
- 18 形容詞と形容動詞とでは、形容詞の方が数が多いですか。 42
- 19 慣用句や故事成語は、多用した方がいいですか。 44
- 20 「ワンタン」は、外来語ですか。 46

発音

- 21 日本語の「ウ」の発音は、英語と同じく唇を丸めますか。 48
- 22 ガ行音を鼻にかけて発音する鼻濁音は、使った方がいいですか。 50
- 23 「じしん」と「かじ」の「じ」の発音は、同じですか。 52
- 24 「橋」と「箸」は、イントネーションが違いますか。 54
- 25 「アマイ」を「アマイ」と読むのは間違いですか。 56
- 26 どんな文も、最後まではっきり発音する方がいいですか。 58
- 27 実際に、「。」は2拍、「、」は1拍空けて発音していますか。 60
- 28 日本語は、英語よりも発音の周波数が全般的に低いですか。 62
- 29 音読は、国語の勉強に役立ちますか。 64
- 30 「満員」を「マーイン」と発音してもいいですか。 66

文字・表記

- 31 助詞の「を」「は」「へ」を、「お」「わ」「え」と書いてもいいですか。 .. 68
- 32 「稲妻」に振り仮名を打つ際には、「いなづま」と書いてもよいですか。 70
- 33 「当用漢字」は、今でも使われていますか。 72
- 34 漢字を覚えるために、毎日何時間もかけてもいいのでしょうか。 74
- 35 「木」は、2画目をはねてはいけないのですか。 76
- 36 「録画をする」という意味の「録る」は、正しい書き方ですか。 78
- 37 「捕らえる」を、「捉える」と同じ送り仮名で「捕える」と書いても
いいですか。 80
- 38 「王」の振り仮名は「おう」ですが、読みも「オウ」ですか。 82
- 39 「十本」は「ジッポン」だけが正しい読みですか。 84
- 40 「図工で本棚を作成した」は、正しい漢字を使っていますか。 86
- 41 正しい筆順は、決められていますか。 88
- 42 昔は、漢字にも濁点を打ったと聞きましたが、本当ですか。 90
- 43 五十音図は、明治時代にできたものですか。 92
- 44 擬音語は片仮名、擬態語は平仮名で書くのが正しいですか。 94
- 45 「ベネチア」と書くのは間違いで、「ヴェネツィア」が正しいですか。 96
- 46 「きゃ」や「ヴァ」は、拗音ですか。 98

47	昔の日本では、横書きも右から書きましたか。.....	100
48	「金城つよし」をローマ字で Tsuyoshi Kinjyo と書いていいですか。 ...	102
49	読点を打つ場所は、決まっていますか。.....	104
50	日本語で「？」を使うのは、許されていますか。.....	106

文法

51	日本語に主語はありますか。.....	108
52	日本語には、決まった語順がありませんか。.....	110
53	「書かせられた」は間違いで、正しくは「書かされた」ですか。.....	112
54	推量と推定は、同じものですか。.....	114
55	「常温では固まりづらいゼリー」は、正しい表現ですか。.....	116
56	「元気がいい」の「元気」は、名詞ですか。.....	118
57	「おめでとうございました」は、間違った日本語ですか。.....	120
58	日本語に複数形はありませんか。.....	122
59	「漁師になるんだ」の「んだ(のだ)」は、強い意志を表す表現ですか。.....	124
60	「学校まで歩く」の「まで」は、格助詞ですか。.....	126

文章・談話

61	過去を述べる文章では、「た」を使わないと文法的に間違いですか。	128
62	日本語では、頻繁に、主語のない文を使いますか。.....	130
63	「日が出て暑くなった。」は、「日が出た。暑くなった。」と同じですか。.....	132
64	インタビューは、児童生徒から町の人に質問し、答えてもらうだけでいいでしょうか。.....	134
65	集めた情報を、起承転結で発表するのは、有効ですか。.....	136
66	1段落が10行や20行になってもいいですか。.....	138
67	接続詞は、すべての文と文の間に置く方がいいですか。.....	140
68	上手に ICT 機器を使用すればわかりやすい発表ができますか。.....	142
69	「話すこと・聞くこと」の練習は、皆の前で話させることで十分ですか。.....	144
70	話すとき、「あのう」や「ええと」などを使ってはいけませんか。.....	146

敬語・待遇表現

- 71 敬語は、日本語だけにありますか。 148
- 72 小学生でも、すべての敬語を使いこなすことが必要ですか。 150
- 73 「寒いです」には違和感を覚えますが、この表現は間違いですか。 152
- 74 謙譲語は、すべて話し手を低めて相手を立てる敬語ですか。 154
- 75 「植木に水をあげる」は、正しい使い方ですか。 156
- 76 「お送りさせていただきます」は、正しい敬語ですか。 158
- 77 「コーヒーになります」などの耳慣れない敬語は、誤った使い方ですか。 160
- 78 会議で先輩に対して「あなた」を使うのは、失礼ですか。 162
- 79 敬語を学びさえすれば、他者に対して適切に対応することはできますか。 164
- 80 生徒からタメロで話されたら、すべて注意すべきでしょうか。 166

方言・外国語

- 81 方言は、東京の言葉がなまったものですか。 168
- 82 沖縄の言葉やアイヌ語は、日本語の方言ですか。 170
- 83 国語教育では、方言を使ってはいけませんか。 172
- 84 若い人は、もう方言を使っていませんか。 174
- 85 外国にも、方言はありますか。 176
- 86 外国出身の子供には、母語を忘れさせて日本語だけを使わせませんか。 .. 178
- 87 JSL 児は、友達と話せれば、もう、日本語指導は必要ないですか。 180
- 88 義務教育は、日本人の子供だけのためにありますか。 182

おわりに 184

索引 185

本書の使い方

- ☞ 全部で8つのセクションに分け、それぞれ10ないしは20項目の基本的な事項をQ&Aの形で示してあります(最後のセクションのみ8項目です)。
- ☞ 基本的にどこからお読みいただいてもけっこうですが、複数の項目が関連しているところもあります。たとえば、《⇒5》(項目5を参照せよ)と示してありますので、ご参照ください。
- ☞ 項目は、Q&A形式で示しましたが、中には単純にYes/Noで答えられない項目もあります。1つの考え方を示したものとご理解ください。
- ☞ 項目末尾には、岐阜大学で行った2018・2019年度教員免許状更新講習で採った現職国語教師76名を対象としたアンケートの回答割合を示しました。どのような考えの国語教師が多いかの参考になさっていただくとよいでしょう(68及び84は、アンケート回収後に項目を変更したため、回答はありません)。回答の中には「？」としたものや空欄であったものもありましたので、YesとNoの回答を足しても100%とはなりません。
- ☞ 年号は、書名等を除き、原則として、和暦と西暦を併記して示しました。ただし、外国の情報や項目末の参照情報は、西暦のみとしました。
- ☞ 読点は、引用文も含めて、すべて「、」で統一しました。
- ☞ 本文中の**太字**は、巻末の索引に採り上げている用語です。
- ☞ 本文中に注記番号がある部分については、その部分をより深く知っていたくために参照となる書籍及びサイト名を挙げました。より深く知りたい方は、そちらを参照していただくことをお勧めいたします。Webサイトは、2020年9月現在のものです。

国語科は、日本語を教える教科ですか。



国語科は、日本語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力を育成する教科です。

戦後日本の学校教育を方向付けたのは、昭和22（1947）年の学校教育法です。その「第二章 小学校」の第十八条四に、「日常生活に必要な国語を、正しく理解し、使用する能力を養うこと」と書かれています。学校教育法は、何度か改定され、平成28（2016）年版では、「読書に親しませ、生活に必要な国語を正しく理解し、使用する基礎的な能力を養うこと（第二章「義務教育」第二十一条五）」と謳っていますが、一貫して「国語」を用いています。

さて、ここで言う「国語」は、教科としての国語でしょうか。いえいえ、むしろ、「国語」は「日本語」の別称なのです。「国語」を辞書で引けば、「①その国において公的なものとされている言語。その国の公用語。自国の言語。②日本語の別称。」（『広辞苑 [第七版]』）と書いてあります。しかし現在では、上記条文の「国語」は、すべて「日本語」と言った方が、一般的に理解されやすいでしょう。学校教育における国語という教科は、日本語を教える教科と言ってもよいのです。

では、「国語」と「日本語」は、日常まったく同じ意味で使われているのでしょうか。「きょう、学校で日本語を勉強した」と言えば、ふつう外国語を母語とする人の話です。また、外国人に対し、「あの人には、国語が通じない」のように「国語」を使うことも、一般にはありません。英語、フランス語、中国語などと比較する場合には、「日本語」を使うのです。一方、「国語」はどう使われているでしょうか。今日、「国語」は、一般的に、母語話者に対して母語を洗練する教育を行う際の教科名に限定して用いられます。学校教育法や、それに基づく『学習指導要領』の「国語」は、一般に使われる意味と違うので、要注意です。

このように、外に対して「日本語」、内に対して「国語」と使うのは、日本と韓国など少数の国における使い分けであって、イギリスやフランスには、

“national language”や“langue nationale”という教科はありません。常に相対的な言語名である“English”や“français”があるのみです。

さて、これからの時代、どのような言語力を育てていったらよいのでしょうか。「国語力」でしょうか、「日本語力」でしょうか。

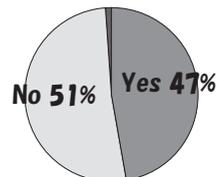
平成16（2004）年の文化審議会答申「これからの時代に求められる国語力」では、外国人や異なる世代との意思疎通や、情報機器を介しての間接的な意思疎通に対応する力を求めています。これらは、外国人との意思疎通を取り上げることから、現代の一般的理解では「これからの時代に求められる日本語力」とも呼べるものです。

一方で、次のようにも述べています。

…近年の日本社会に見られる人心などの荒廃が、人間として持つべき感性・情緒を理解する力、すなわち、情緒力の欠如に起因する部分が大きいと考えられることも問題である。情緒力とは、ここでは、例えば、他人の痛みを自分の痛みとして感じる心、美的感性、ものあわれ、懐かしさ、家族愛、郷土愛、日本の文化・伝統・自然を愛する祖国愛、名誉や恥といった社会的・文化的な価値にかかわる感性・情緒を自らのものとして受け止め、理解できる力である。この力は自然に身に付くものではなく、主に国語教育を通して体得されるものである^[1]。

キーワードとなっている「情緒力」が日本文化の礎とされている点で、ここで求められている力は、単なる日本語の運用能力以上の言語力であると考えられます。この引用にある抽象的な語彙に対する捉え方は様々ですが、国語教育には、多様な人々に対応できる論理的な言語力である「日本語力」と、母語を通して涵養される情緒力を含む「国語力」、両者の均衡ある教育が求められています。

[1] 文化審議会答申「これからの時代に求められる国語力について」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/bunka/toushin/04020301/003.htm



現職国語教師の回答

「道」と「道路」、「あす」と「みょうにち」は、同じ意味ですか。



厳密には違います。

『小学校学習指導要領（平成29年告示）』「第2章 各教科 第1節 国語 第2 各学年の目標及び内容〔第1学年及び第2学年〕 2 内容〔知識及び技能〕」には、次のような記述があります。

オ 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。

「意味による語句のまとまり」については、『同 解説』に、「ある語句を中心として、同義語や類義語、対義語など、その語句と様々な意味関係にある語句が集まって構成している集合」と定義されています。子供たちに辞書を引かせることは、この意味のつながりを知る手段を学ばせることと言えます。

しかし、「様々な意味関係」とあるように、意味には多様な側面があります。たとえば、「道」と「道路」、「あす」と「みょうにち」は、まったく同じ意味でしょうか。「道」は、動物が歩いて作ったものも指しますが、「道路」を動物が作ることはありません。また、「自分の信じた道を行け」と言う代わりに、「自分の信じた道路を行け」とは言えないように、「道路」には抽象的な「進路」の意味はありません。また、「みょうにち」の方が「あす」よりも硬い文体で用いられます。

意味には、様々な種類があるとする考え方もあります。かつて、G. リーチは、次の7つの意味を挙げました^[1]。

概念的意味：意味を構成する示差的特徴のうち必須なもの
束内包の意味：人々が共通に抱く連想的イメージ

文体的意味：話者の性・世代・職業などについて、社会の人々が一般的に抱いているイメージ

喚情的意味：話者の感情、態度について抱いているイメージ

反映的意味：同じ言語表現の別の意味から連想されるイメージ

連語の意味：他の語と結びついた時に生じる意味

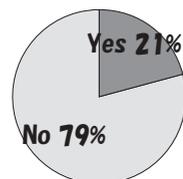
主題の意味：メッセージの組み立て方によって伝達される意味^[2]

この区分によると、「あす」と「みょうにち」は、**概念的意味**は同じであっても文体的意味が異なりますし、「道」と「道路」は、そもそも概念的意味さえ異なる可能性もあります。このように、厳密な意味で**同義語**は存在せず、すべては共通する意味を多くもつ**類義語**だと言う立場もあります。

国語教育では、『小学校学習指導要領（平成29年告示）』第1学年及び第2学年において、同義語を認めています。しかし、第5学年及び第6学年では、同義語という言葉は消え、類義語となります。類義語相互の微妙な差は、上記のような様々な意味の違いを考えると理解しやすくなります。

[1] ジェフリー・リーチ（1977）『現代意味論』（安藤貞雄監訳）研究社出版、pp.12-29.

[2] 田中春美他（1982）『言語学演習』大修館書店、pp.157-160.（リーチ自身の定義が難解なため、こちらの要約を引用した）



現職国語教師の回答

日本語の「ウ」の発音は、英語と同じく唇を丸めますか。



日本語の共通語の「ウ」は、唇を丸めない非円唇音です。

日本語における「コミュニケーション」の発音は、英語の communication [kəmjuːnəkeɪʃ(ə)n] と 3 つの点で異なります。

まず、「ミュ」の音です。日本人が英語を話すときに苦手な音はたくさんありますが、母音の中では「ウ」の音が苦手です。え？ 日本語も英語も「ウ (u)」は「ウ (u)」でしょって？ そんなことはありません。英語の [u] が唇を丸める音（円唇音）であるのに対し、日本語はそれほど唇を丸めない音（非円唇音）のウ [ɯ] を用います。特に、英語では、アクセントのある [u] が唇を丸く突き出して明瞭に発音されますが、この母音の違いに気がついていない人も多くいます。

次に、「ケー」の部分に着目すると、日本語では、長い母音 [e:] を含む音節ですが、英語では二重母音の [ei] が含まれています。日本語では、「英語」も「時計」も、「エーゴ」「トケー」と読むことが多く、しっかりと読むという意識がある場合に「エイゴ」「トケイ」と読まれるのみです。NHK でも、長い母音の [e:] を基準としています^[1]。

同様のことが、「オー」でも言えます。英語の coat と caught は、発音が [kɔʊt] と [kɔ:t] ([ɔ] は広い「オ」と異なります。しかし、日本語では「通り」も「党利」も（はたまた、俳優の松坂桃李さんの名前も）、「トー」という**オ列の長音**を含みます。平仮名で「とうり」と書いても、発音は「トーリ」。平仮名表記は、必ずしも発音と一致しません。

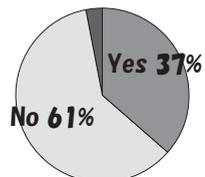
最後の難関は、語末の「ン」と n の発音です。日本語で「コミュニケーション」と言ったときの最後の口の形を見てみてください。日本語では、口を開いたままであるのがふつうです。一方で、英語における語末の n は、しっかり歯茎に舌先を付けて発音する [n] ですので、唇は閉じなくとも、口が大きく開いたままということはありません。

このように、日本語の「コミュニケーション」と英語の communication とでは、母音が2箇所、子音が1箇所、大きく違うのです。

ある言語で用いられる音は、それぞれに発音の基準となる音があります。それを、言語が異なると、知らず知らずのうちに近似の音で代用してしまいます。『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編』「中学年の外国語活動の導入の趣旨と要点」には、「日本語と英語の音声の違い」などに注意する旨、書かれています。具体的には、第3学年及び第4学年で、「日本語のミルク(mi-ru-ku)は3音節であるが、英語のmilkは1音節である」ことや、foxを例に「日本語にはない /f/ や /ks/ の音に触れたり、慣れ親しんだりする」ことが挙げられています。また、第5学年及び第6学年では、日本語の発音にない「catの母音やmathのthの子音」とともに、「singerやsix, easyなどの語の /si/ や /zi/ を、日本語の「し」や「じ」と同じように、/ji/ や /dʒi/ と発音しない」ことなどにも注意を促しています。

しかし、この場合にも日本語の発音を正しく知らなければ、正確な英語の発音指導もできません。まず、日本語の発音の特性を正確に知ることが肝要です。

[1] NHK放送文化研究所編（2016）『NHK日本語発音アクセント新辞典』pp.(15)-(16).



現職国語教師の回答

助詞の「を」「は」「へ」を、「お」「わ」「え」と書いてもいいですか。



「現代仮名遣い」に、助詞は「を」「は」「へ」と書くと書かれています。

戦前までの歴史的な慣習による表記（歴史的仮名遣い）は、戦後、現代語の音韻に従って書き表すことを原則に、改められました。昭和21（1946）年には「現代かなづかい」が、そして、その改定版として、昭和61（1986）年には「現代仮名遣い」^[1]が定められました。一般の社会生活における表記は、この「現代仮名遣い」によって書かれます。

「現代仮名遣い」は、現代語の音韻に従って書き表すことを原則とします。そのため、歴史的仮名遣いのように、「ジュー」という音を、「充実」の場合には「じゆうじつ」、「柔軟」の場合には「じうなん」、「十月」では「じふがつ」、「住居」の場合には「ぢゆうきよ」のように書き分ける必要はありません。同じ [ɔ:]^{オー} という発音でも、broad では oa、taught では au、thought では ou、north では or、door では oor、talk では al と書き分ける英語のスペルのように、語源的知識が表記に関わることが少なく済むようになったのです。

とはいえ、一部に表記の慣習を尊重して一定の特例が設けられています。そのひとつが、助詞「を」「は」「へ」の表記です。

どうして、この3つの助詞だけが、発音通りに表記されないのでしょうか。それは、古代、「お」「わ」「え」と異なる発音がなされていたことを書き表した名残だからです。奈良時代より前、ハ行音は p 音で発音され、「は」は [pa]、「へ」は [pe] だったと言われています《⇒ 5》。少なくとも [wa] や [e] とは異なる発音でした。「を」も同様です。その時代に書き分けられた慣習が現代にも残っているというわけです。

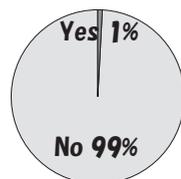
では、現代でなぜこのような歴史的仮名遣いの一部と言ってよい表記が取り残されたのでしょうか。それは、助詞という、他と紛れやすい小さな言葉であることが関連しています。「りょうりおぼんのうえにおく」と書くと、「料理お盆の上に置く」なのか「料理を盆の上に置く」なのかわかりませんが、「りょうりを

ぼんのうえにおく」と書けば意味は通ります。ただ、この理論でいけば、「はははいしゃに診てもらった」もすぐに意味が通るはずですが、実際には「母は医者に診てもらった」なのか、「母、歯医者に診てもらった」なのか、はたまた、「歯は歯医者に診てもらった」なのか、すぐにはわかりません。むしろ「ははわ」の方がわかりやすいかもしれません。結局、「を」以外は、ふつうに使われる文字であるため、助詞であるとすぐわかるわけではないのです。結局、わかりやすさだけでは、説明ができないのです。

さて、一方で、この「を」「は」「へ」の発音は、どういう発音でしょうか。「は」と「へ」は、[wa]と[e]でよいとして、「を」を[wo]だと思っている人は、実際、多くいます。しかし、「現代仮名遣い」では、例外として、助詞の「を」「は」「へ」を発音通りに書かないといっているのであって、「を」に対応する「現代語の音韻」は「オ」であると明記しています。つまり、「雑誌を読む」の「を」を[wo]と読むのは間違いなのです。音楽の指導で母音連続を避けてはっきり発音するために「を」を[wo]と発音させるような例外を除いて、「を」は[o]と読まなければなりません。

「現代仮名遣い」は、国語だけでなくすべての教科を教える基本中の基本です。一度目を通しておいた方がよいでしょう。

[1] 文化庁国語施策情報内閣告示・内閣訓令「現代仮名遣い」https://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/sisaku/joho/joho/kijun/naikaku/gendaikana/index.html



現職国語教師の回答

日本語に主語はありますか。



英語ほどはっきりした特徴はありませんが、主語と認められる特徴は、日本語にもあります。

日本語の文法の基礎は、おおざっぱに言えば、明治時代に西洋語の文法を参考に作られました。その際、**主語**という考え方も、日本語に持ち込まれました。

英語など多くの西洋語では、主語が、他の目的語等から切り離され、動詞の前に置かれます。さらに、主語は、英語でいう三人称単数現在、いわゆる「三単現」の‘-s’を動詞に付けるなど、活用に関与します。主語を特別扱いする理由が、英語などの西洋語には一般的にあるのです。

日本語ではどうでしょうか。日本語では、主語も目的語も、さらには、日時や場所を表す名詞句も、すべて動詞の前に置かれます。主語だけが特別の位置に置かれるわけではありません。英語における三単現の‘-s’のような変化を引き起こすこともありません。これらの特徴から、主語がない、あるいは主語を特別扱いをする必要がないと主張する人もいます。

しかし、『小学校学習指導要領（平成29年告示）』「第2章 各教科 第1節 国語」には、「主語」という言葉が見られます。

第2 各学年の目標及び内容

〔第1学年及び第2学年〕2 内容〔知識及び技能〕

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

カ 文の中における主語と述語との関係に気付くこと。

〔第3学年及び第4学年〕2 内容〔知識及び技能〕

- (1) 同

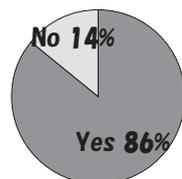
カ 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。

教えなければならない概念なのですから、「主語はない」と叫んでも、小学校では困ります。もちろん、「第10節 外国語」でも英語の「主語」は出てきます。

では、本当に、日本語には主語と認められる特徴がないのでしょうか。英語の三単現の‘-s’のように、わかりやすい活用への関与はありませんが、日本語では、「犬が走る」に対して「校長先生がお走りになる」のように、主語が尊敬すべき人の場合にのみ、尊敬語が用いられます。また、「私は悲しい」とは言えても、「彼女は悲しい」とはふつう言わないなど、主語が一人称の場合にのみ使える感情形容詞があります。主語だけがもつ特徴がある、すなわち、主語はあるのです。

ただ、日本語では、この主語を表す形式が難しいのです。一般的に、小学校では「○○がどうした」や「○○がどんなだ」が主語であると、形の特徴から教えます。ここに、「○○はどうした」など、「は」を入れることがあります。これは要注意です。「～が」と「～は」で表される名詞句が主語であるということで、9割方はよくても、そうでない場合があるからです。「その本は、駅の書店で買いました」のように、目的語の「その本を」について述べるという気持ちを、**主題**として「～は」で取り立てて示すこともあります。この場合の「～は」は、必ずしも主語ではありません。一方、「～が」も主語以外の場合があります。「～が好きだ」や「～が食べたい」などでは、目的語が「～が」で示されています。

学校で、「～が」や「～は」が主語だと教える際に、子供たちに自由に言わせると、主語でない形が必ず出てきます。小学生に詳しく教える必要はありませんが、主語でない「～が」や「～は」があることも、先生は知っておくとよいでしょう。



現職国語教師の回答

過去を述べる文章では、「た」を使わないと文法的に間違いですか。



小説では、過去の話でも、背景的な状態を「た」を使わず表します。

「ある日の暮方の事である。」で始まる芥川龍之介の『羅生門』は、中学校の物語教材として、多くの教科書にも載る作品です。その一節を引用しましょう。下線は、述部を示すために付けたものです。

下人は、大きな嚏くさめをして、それから、大儀たいぎそうに立上った。夕冷えのする京都は、もう火桶ひおけが欲しいほどの寒さである。風は門の柱と柱との間を、夕闇と共に遠慮なく、吹きぬける。丹塗にぬりの柱にとまっていた蟋蟀きりぎりすも、もうどこかへ行ってしまった。

文末を見ると、最初の文では「立上った」と「た」で表されています。「ある日の暮方」を回想して述べているとすれば、これは過去の一出来事を描写したものと捉えられそうです。

ただ、そうだとすると、なぜ「寒さである」と「吹きぬける」は、「た」の形になっていないのでしょうか。それは、この2事象が、「下人が立上った」動作と同時に存在する、その動作の背景的な状態だからです。このような、時を進めない同時の状況を表す場合、日本語では、「た」を用いないというルールがあるのです。これが、「た」を、英語と同じ単なる時制（過去）と捉えてはいけない理由です。

そうして背景を示した後に、「蟋蟀がどこかへ行ってしまった」と出来事が、またひとつ進むことが示されます。「た」は、ちょうど紙芝居を一枚めくるように場面を進める働きをもっています。小説のような物語における「た」には、会話などで使われる、発話時から捉えた過去の「た」と異なる機能があるのです。

日本語には日本語のルール（文法）があることは、57でも述べました。57で述べた確認用法の「た」もそうですが、この過去における「た」の不使用を、時

制の不一致などというのは、日本語を知らないで英語を基準にした考え方です。

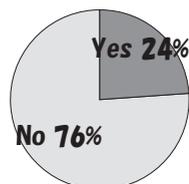
そもそも、日本語の「た」には、過去の他に**完了**の用法もあります。完了とは、基準時より前に終了した出来事の影響が残っていることを表す表現です。

27の「お手紙」の例で見た、次々と出来事が生じて場面が移っていく様は、まさに、直前の動作が終了し、その余韻も覚めやらぬうちに次の動作が生じているともいえます。このような文章の中の「た」の用法は、完了用法の延長上であり、出来事を現在から捉えて時間の中に位置づける過去の用法ではありません。

しかし、過去も完了も、基準時より以前であることを表す表現であるという共通点があります。そのため、平安時代以降、過去の助動詞に意味の変容が認められるようになり（詳細は不明です。「き」と「けり」の使い分けなども、依然として論争があり定説を見ません）、鎌倉時代頃には、過去の助動詞が次第に口語で用いられなくなって、過去も完了も一本化されたようです。こうして、「た」に複数の機能が集中したため、物語の中の「た」の機能は、区別が難しいのだといえましょう。

現在でも議論が続く分野については、大学でじっくり腰を据えてこそ学べることで、表面的にここで述べてもなかなか理解してもらえないかもしれません。ただ、本当の教育とは、このような「よくわからない」の端緒を開くことであって、単に、過去とか完了とかを覚えさせるものではありません。

日本語という言葉の不思議を考えることで、考えることが好きになるような国語の授業が行われることを期待します。



現職国語教師の回答

敬語は、日本語だけにありますか。



チベット語などでも発達していますし、待遇的配慮は、英語にもあります。

敬語は、主語や目的語のような、出来事の中に登場する人物を高める**素材敬語**と、話し相手に対する配慮を表す**場面敬語**（対者敬語）とに分けられます。世界の言語では、文法的特徴が日本語と異なるため同じ分類をするのは困難ですが、おおよそ、次のような特徴をもっています。

表1 世界の敬語

言語名	素材敬語		場面敬語 (対者敬語)
	尊敬語	謙譲語	
日本語	○	○	○
チベット語	○	○	○
マズラ語	○	○	○
韓国・朝鮮語	○	△	○
中国語	×	×	○
英語	×	×	×
フランス語	×	×	○

○は、日本語の「お～になる」や「お～する」のように、様々な動詞に付いて生産的に表すことができる形式をもっていることを表します。△は、日本語の「お～する」のような汎用的な形式はもたないが、特定の動詞に特殊な形があることを示します。

日本語のように、広く動詞に付く敬語体系をもつ言語は、チベット語や東ジャワのマズラ語など少数です^[1]。韓国語は、限られた動詞にのみ謙譲語があり、日本語の方言も、多く、謙譲語の一般形を欠く韓国語タイプです。

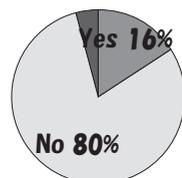
中国語では、敬意の対象となる対称詞の「您(nín)」と、敬意のない「你(nǐ)」

が使い分けられます。フランス語においても、距離のある対称詞 vous と親しい^{ヴー}tu^{テュ}があります。これらは、尊敬語とも謙讓語ともいえませんが、話し相手に対する敬意と捉えることができます。

英語だけがすべて×になっていますが、英語には敬語がまったくないのでしょうか。J. V. ネウストプニー氏は、英語に尊敬語、謙讓語、丁寧語といった敬語はないと述べています^[1]。しかし、英語の‘Would you ~?’や‘May I ~?’などについては、許可要求や依頼の場面に限られてはいますが、「これが敬語と基本的には同じ役割を果たしていることは明らか」(p.13)とも述べています。英語には、敬語はなくても、内容や場面に応じて正しく聞き手に対して敬意を表す表現（**待遇表現**）はあるのです。

80でも述べますが、尊敬語・謙讓語・丁寧語という狭い意味の敬語システムだけで考えることは、世界の待遇表現を考える上では不十分です。世界には、多様な敬意表現があると理解して学びましょう。

[1] J. V. ネウストプニー (1974)「世界の敬語—敬語は日本語だけのものではない—」林四郎・南不二男編『世界の敬語 (敬語講座 8)』明治書院、pp.7-40.



現職国語教師の回答

方言は、東京の言葉がなまったものですか。



方言は、昔の京都の言葉などに影響を受けていたり、各地で独自に発達したりした言葉です。

方言のでき方には、いくつかあります。

多くの語彙は、都が置かれていた京都の古い言葉に由来します。秋田の「めんこい」は、「いとおいしい」「かわいらしい」という意味の古語「めぐし」が変化したものですし、鹿児島方言で後に軍隊の言葉を経て共通語となった「びんた」などは、頭の側面の髪の毛を指す「鬢^{びん}づら」という古語に由来します。方言には、古い都の言葉が変化した語句が多いのです。

江戸から各地に広まった言葉も、特に15世紀以降の東日本では多く見られるようですが、それでも京都中心の言葉の勢力は、東日本でも優勢ですので、方言は必ずしも江戸の言葉が変化したものとは言えません^[1]。

明治以降でも、おおよそ、方言の広がりには京都・大阪を中心に、東日本では東へ、中国・四国地方などでは西へと動いているものがあります。もちろん、関西方言から東京に直接入った「～させてもらいます」や「しんどい」などもありますが、東海～神奈川で一般的だった「ら抜き言葉」が、じわじわと東京に浸潤したという考え方もあります。

一方、江戸時代から日本の中心となった江戸（東京）は、上方（京都・大阪）や愛知県三河地方などから多くの言葉を取り入れてきました。中には、関東周辺部から東京方言に入ったと考えられている言葉もあります。若者言葉の「ウザい」は、東京西部の言葉が由来と言われます^[2]。東京の言葉は、常に、各地の方言から影響を受けて発展し続けているのです。

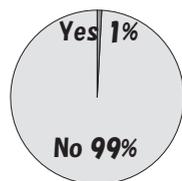
さて、方言は、戦後教育でどのように受け取られてきたのでしょうか。『学習指導要領』で、その扱いの変遷を見てみましょう（下線は筆者）。

昭和22年『小学校学習指導要領 国語科編』（私案）「第一章 まえがき
第二節 国語科学習指導の目標」

- なるべく、方言や、なまり、舌もつれをなおして、標準語に近づける。
- 昭和 33 年改訂『小学校学習指導要領』「第 2 章 各教科 第 1 節 国語」
全国に通用することはとその土地でしか使われないことはとの違いを理解すること。
- 昭和 43 年改訂『小学校学習指導要領』「第 2 章 各教科 第 1 節 国語」
共通語と方言とでは違いがあることを理解し、また、必要な場合には共通語で話すようにすること。
- 昭和 52 年改訂『小学校学習指導要領』「第 2 章 各教科 第 1 節 国語」
なまりや癖のない正しい発音で話すこと。
- 平成元年改訂『小学校学習指導要領』「第 2 章 各教科 第 1 節 国語」
発音のなまりや癖を直すようにして話すこと。
- 平成 10 年改訂『小学校学習指導要領』「第 2 章 各教科 第 1 節 国語」
共通語と方言との違いを理解し、また、必要に応じて共通語で話すこと。
(平成 20 年改訂版も同じ文言)
- 平成 29 年改訂『小学校学習指導要領』「第 2 章 各教科 第 1 節 国語」
語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。

平成 10 年以降、「なまり」という言葉は使用されていません。しかし、多くの先生は、子供の頃、「なまり」を直す教育を受けてきています。一朝一夕にその意識が変化することはないかもしれませんが、東京の言葉と違えば「なまり」であるという考え方を止めて、方言は地域の個性であると認め合う教育が、これからは求められます。

- [1] 井上史雄 (2007)『変わる方言 動く標準語』筑摩書房、pp.126-195。(特に p.187.)
[2] 井上史雄・鎌水兼貴編 (2002)『辞典 新しい日本語』東洋書林



現職国語教師の回答



国語教師が知っておきたい 日本語文法

山田 敏弘

ISBN : 978-4-87424-310-7 定価 : 1,600 + 税

学校の文法がつまらなく思えるのはなぜでしょう？ 覚えなければならない性質の強すぎる文法を見直し、知識としてだけでなく考えるための土台としての文法を提案する日本語文法入門書です。



国語教師が知っておきたい 日本語音声・音声言語 改訂版

山田 敏弘

ISBN : 978-4-87424-583-5 定価 : 1,600 + 税

国語教師が日本語の音声の特徴を正しく理解し、コミュニケーション方法の知識を知ることによって、より児童・生徒に伝わる授業になります。平成 23 年度以降、順次改訂実施された新学習指導要領に合わせて、初版より一部の内容を書き換えた改訂版です。



日本語文法練習帳

山田 敏弘

ISBN : 978-4-87424-655-9 定価 : 1,200 円 + 税

学校文法をもとに、現代日本語の文法を丁寧に解説しています。作文の誤りを直したり、古典文学や身近な作品を読み解いたり、多様な問題を解きながら、役立つ文法を楽しく学べます。『国語教師が知っておきたい日本語文法』のワークブック編です。